

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.98 2024 年 1 月 13 日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369  
ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

## 三好十郎作「獅子」好評のうちに終了

2023 年 11 月 18 日（土）～ 26 日（日）に、京浜協同劇団第 97 回公演が開催され、好評のうちに終了しました。出演された方に感想を寄せていただきました。なお、幾人かの方にご執筆をお願いしましたが、いただいたのはお 1 人だけでした。ご了承ください。

### 自分を成長させる大きな経験だった

城谷 昇汰

今まで見る立場だった演劇を、初めて演じる立場として昔から慣れ親しんだ京浜協同劇団でできたことを、とても嬉しく思っています。

練習のときに皆さんがあたたかく教えて下さり、個人的には恥ずかしくない演技ができたと思っておりません。

練習のときに意見がぶつかることもありましたが、皆さんが思っていることを素直に言える環境で練習でき、そういったような環境が作品の質を上げるのだと実感しました。

右も左も分からない中、経験豊富な方々が多い環境でできたことはとても幸福なことでした。本当に皆さんには感謝が尽きません。

初めて台本を読んだとき、自分が思っている以上に話す速度が早いようで直すのにとても苦労しました。と

いうのも普段と変わらない速度だったので変えるのがとても難しかったのです。ふと気を緩めると速くなり、その都度教えてもらい直すことができました。

演じる前、自分は、演技は役になりきるだけだと思っていました。

しかし、いざ演じてみるとなると、演技は今までの自分の経験を当てはめていく、言わばパズルのようなものであると考えるようになりました。だけれども、自分は役のように親が嫁ぎ先を決め、それが嫌な姉が家を出るなんて経験がある訳がない。そこからは想像で役を作り上げていくしかなくなり、悩んだことを覚えていています。さらに、お客さんに見てもらうため、立ち位置や振り向く方向などの動きにも気をつける必要もあり、今まで何気なく見てた演技が、いかにしてお客さんに作品の魅力を届けるのか、また、作品にリアリティを持たせるような工夫など、演者の一挙一動にしっかりとした意味があることを、初めて本当の意味で理解できた気がしています。

新型コロナウイルスの影響もあり、学校でも人前で話す機会があまりなく、本番前に限らず練習中でもと

写真撮影©長坂クニヒロ（以下同）





でも緊張しました。しかし、始まってしまえば意外にも早いもので、直ぐに終わってしまったように感じます。今思えば、演技に精一杯で考える暇がなかったのかもしれない。

自分が学んだのは演技だけではありません。たとえばメイクの仕方。今まで自分でメイクなんてしたことがなく、当然どれをどのように使ったらいいのかなん



### 古市場寄席 地元の芸人と浅草の芸人の競演！ 須田 セツ子

10月8日（金）、スペース京浜にて、コロナ禍以来、久しぶりに寄席が開かれました。

予定を上回る人数で、大入り満員でした。

演目は『マジック・パントマイム』、劇団の庸子さんのお別れ会で演奏して下さった『ヴァイオリン』、『ピアノ演奏』、中原区在住の寢床屋道楽さんの『落語』、三遊亭絵馬さんの『紙切り』、腹話術のしろたにまもるさん——の豪華メンバーでした。

『紙切り』の絵馬さんのチャーミングな話術と技には人気がありました。今では紙切りの芸人が全国で10人くらいしかいないとのことでした。

楽しい話をしながら、客席から注文を受けて創る作品がバックの黒の紙にうつし出されると歓声が上がります。特に「リオのカーニバル」の注文の作品

で、分からない状態でした。そのため、初めのうちは、全て教わりながら少しずつ慣れていきました。その甲斐あって、本番では1人でできるようになりました。これも根気強く教えてくださった方々の力あってこそだと思っています。

最後になりますが、今回「獅子」のお芝居に参加できたことは、自分にとって自分で考える力であったり、他の方々と思疎通する力であったりを、成長させるとっても有意義で大きな経験だったと思います。それこそ、先程も書かせてもらった通り新型コロナウイルスの影響で人との関わりが少なかったため、こういった機会もなく過ぎてきた世代ですから、こういった経験が今後大きなアドバンテージとして活きると思います。本当に様々な経験をさせてくださった獅子の関係者の皆さんには感謝の念でいっぱいです。

(協力出演者・高校生)



の出来栄には拍手喝采。

最後の出し物は、皆さんおなじみの腹話術の『ゴローちゃん』の出番です。時事版で、ゴローちゃんの舞台を観ている人は、耳慣れた内容もありますが、年齢層に合わせておもしろく語ってもらい、高齢者の人はこんなに笑う機会は少ないのではないかなと思ひ、なんだかうれしくなりました。

皆さん帰るときは、ニコニコ顔で楽しい1日であったことと思います。

今回の催しで思ったことがあります。

☆定期的またはチャンスがあれば地域の人に来られるような場所であってほしい。

☆チラシの配布範囲を広くする。

☆皆が楽しめる出し物を。

☆今回のように高齢者にもわかりやすい催し物、入場料とか……皆さんからお知恵を拝借したいものです。  
(文化の仲間世話人)

# 結成から27年目の定期総会を開催しました

文化の仲間事務局長 山木 健介

2023年9月24日(日)に第25回定期総会をスペース京浜(京浜協同劇団稽古場)で開催しました。開催しなかった年と台風で中止した年がありますので、1996年9月1日の結成から27年になります。

総会の参加者は17名、総会記念企画「安達元彦さんの講演と鈴木たか子さんのピアノ演奏」は25名の参加でした。

コロナ禍で、地域の子どものための「お楽しみ会」も開催できず「花火納涼会」も台風で中止になりました。主な活動としては『音楽の「根」を掘る 安達元彦』



本の第3回茶話会を行い、世話人会(月1回)と会報の発行を行いました。また、劇団第96回公演「米屋はまだ無事か」「正直・清兵衛」及び第40回かわさき演劇まつり「モモ」の受付等の手伝いをしました。

総会での主な発言は、以下のとおりです。

- ・バスで、古市場交番前のアナウンスの時に「京浜協同劇団はこちらです」とアナウンスできないか。
- ・稽古場を使ってもらインターネットを流しているが、東京の劇団から問い合わせがある。貸出料金も都内より安い。
- ・大道芸が稽古場で使っている。
- ・テレビ番組で、2日間「稽古場」ということで使われた。
- ・10月20日に「古市場寄席」をやる。
- ・劇団の場所を知ってもらうために、ささやかでも1人1人が「劇団はどこで降りるのですか」と運転手に聞くとか。
- ・公演での道案内の看板は効果があると思う。
- ・劇団を知ってもらうためには、常に稽古場で何かやっていないと。
- ・文化の仲間の会報に会員の声をのせるのに、会報を読んだ感想を書いてもらってはどうか。



総会の最後に、「世話人」(役員)を選任しました。世話人の常孝孝央さんと顧問の小野寺晃さんが退任しました。

世話人は(敬称略)二村柊子・高橋明義・西川日女子(以上代表)山木健介・須田セツ子・橋本教善(以上事務局)川島雅博、佐藤友吉・藤崎秀子の9名で、会計監査は昨年に続き渡辺そのこさんをお願いしました。

## 鈴木さんのピアノを聴いて

岡本 明男

私は、安達先生の「あそび」の話くらいから総会に参加しました。

「あそび」といえば、次回公演《獅子》のチラシのSL D51が力行している写真が掲載されています。SLの動力を生み出すのは蒸気圧(15kg/cm<sup>2</sup>)です。これは複雑な経過を経てピストンの前後運動からクランク軸で回転運動に変換され直径175センチもの動輪に伝えられます。摺動部、軸受けにはベアリングはありません。ですから「あそび」が、ないと擦り切れてしまいます。





鈴木たか子さんの演奏でピアノの鍵盤から解き放たれた音符は会場の人たちの心を満たし私たちの心に住みつききました。譜面に書かれた音符はピアニストによって翼は付けられどんなすき間にも入り込み窓から飛びだしどこまでも拡がっていくと思いました。人の心にも同じことがいえます。ベアリングはありません。ですから音楽は大事なんです。

演奏した、「平和に生きる権利」は、チリの歌手ビクトラ・ハラがベトナムのホーチミンに贈った歌です。《静かに暮らし生きる権利を / ホーチミンは歌う / ベトナムの空から / 飛び交う砲弾も水田の畦から / 消せはしないだろうこの唄を》

「アマダの思い出」は、鉱山労働者の夫を鉱山事故で亡くした、その妻の嘆きと夫婦愛を歌っています。

TOSAは《十三の砂山、♪十三の砂山、米なら良から沖の米大舟にただ積みしよ……》と歌っています。

青森の十三の港に着岸する北前船は北海道などかならの海産物を運びました。日本海周りで瀬戸内海をへ

て大阪まで運ぶ海の大動脈でした。

この民謡は、冷害などの飢饉を嘆き、沖に浮かぶ米大舟—べいだいしゅうに米を積みたい、との切実な願いを歌っているのでしょうか。願いは、旧能生《現糸魚川》に伝わったのでしょうか。

私の生まれた町の盆踊りは過去《十三の砂山》でした。それは、町は北前船の寄港地だったからです。

ある種の陸生貝の分布域は北前船の寄港地に沿っているとのこと。

《越中おわら》は300年の歴史。毎年9月1日から3日まで富山市八尾町11町内会で開催。(今年、NHKは同時中継放送3時間半)

「越中風の盆」は胡弓と三味線・小太鼓で演奏されます。歌い手は『歌われよ…わしやはやす…』と歌います。(歌詞は数百もある)男踊り女踊りがあります。しなやかで繊細な動きは美しく、農作業のようすがとり入れてあり、懐かしかったです。鏡町の踊りは、男女のなんともいえない恋情はそこはかとなく湧いてきてきます。私は北陸の生まれです。父と母、兄姉たちと一家総出での農作業を思いだし涙しました。鈴木たか子さんの演奏は見事に「風の盆の」全てを現していました。北陸では「風の盆」が終わるころにいよいよ秋の収穫が始まります。

宣言は、ビクトル・ハラの子言ともいえる歌です。すべては書けません。次の機会に。

(文化の仲間会員)



絵手紙を描く会

## 初めて開催しました

山木 健介

2023年10月15日(日)午後2時から8名の参加で、絵手紙を描きました。ほとんどの参加者(全員中高年以上の年です)が、生まれて初めて絵手紙を描きました。

描いてみてわかったことは、描くもの(果物など)



が目の前にないとうまく描けないということです。絵やスマホで検索した果物を見ながら描いてもうまく描けない。立体感がないと陰影を含めて本物感を感じられない。やはり目の前の野菜や果物を見ながらの方が良いです。

絵の具の使い方も、竹間テル子さんに教えてもらったりして描きました。筆1本で色々な色を描こうと思うとその都度筆を洗って別の色をつけることになるので、わずらわしい。数本の筆があった方が良いと思

ました。

描いていると時間のたつのを忘れて集中できますが、納得できるものを描き上げるのは難しい。生まれて初めてですから当然ですが。

最後に全員の絵手紙を並べてみましたが、結構皆さんなかなかの作品です。初めてでも結構描けるものだなと思いました。



絵「手紙」ですから、出す相手がいるわけで、相手を想定して描くのも良いかも。

参加者全員の感想は、絵手紙を描く会をやって良かった、ということでした。描いてみると下手なりに何とかなるかなというのが感想です。



## モモを観劇して

山中 彩子

数年ぶりに京浜協同劇団さんの舞台を観させていただきました。

以前観させていただいたときは演技や演劇などに興味がなく、知り合いが出演しているから観に行ってみようという気持ちでしたが今回は演技に興味を持って観に行った「モモ」という作品。原作は読んだことがなく舞台上で観劇が初めてでした。生で観る舞台は久しぶりでミュージカルや朗読劇などとはまた違う生の演技を観させていただきとても新鮮な気持ちになりました。

私の中では照明や音楽がモモのコンセプトにあって作品や演者に没入させ、さらに作品を楽しませるSE（音響効果）もとてもよかったです。大道具では時計の針までちゃんと動くところがすごいいました。小道具は時間泥棒が所持していた葉巻、吸ったときに葉巻の先端部分が赤く光って遠くから見ても細かいところまでこだわっていて観ていて楽しかったです。

時間の花は演者の手を花が咲いて枯れるところまで表現するところ、さらに花を咲かせる演出の前に時間が経つごとにモモが持っていた花が枯れていく小道具もすごかったです。

舞台セットの使い方も上と下で街並みを表現したり、時間泥棒が床屋のフージーに天の声みたいな役割で声掛けたりなど他のシーンでも様々な使い方をしていて面白いセットの使い方をしているなと感じました。

そして時間泥棒の皆さんの表情が遠くから観劇していてもメイクのおかげかとても見やすくどんな表情でも伝わりやすかったです。

時間について考えさせられる話でした。

今この時何をして生きていくか、限られた人生の中で自分は何をどうすれば無駄な時間を過ごさないで生きていけるか。自分の時間や人生を見直す良いきっかけになった作品だと感じました。

子どもたちの時間のとらわれについても表現や演技方が良かった。最近公園やフードコートなどへ行くとゲームやスマホをやっている子どもたち。私が小学生の頃はSwitchやスマホなんて持っていなかった時期だったので時代が変わってしまったなと感じました。

モモが遊ぼうと言ってもゲームやスマホに夢中で外で遊ぶ楽しさ、友達と鬼ごっこや缶蹴りなどをして遊ぶということが少なくなっているそのことを表現してモモの悲しい気持ちが伝わってきました。

この舞台を観劇して仲間と一緒に創り上げる、協力するということが大切なんだと改めて感じました。

私自身小さい頃はゲームやスマホなどに触れてこなかったため外で友達とドッジボールをするか家でごっこ遊びをするかなどの遊び方法で十分楽しかった。今はスマホを見て調べるだけで情報が流れて来る便利なものだけその分時間が無くなっていき人と会話する機会も減っていると感じています。

大人が忙しいから子どもにかまっていられない、なんでも禁止にする（公園のボール遊び禁止、野球禁止など）そのせいで子どものスマホやゲーム依存など結局禁止や制限しているのは大人だと私は思っています。

これから私たちは変えて、変わっていかないといけないとモモを観て感じました。

\* \* \* \*

会報編集部から 前号で依頼していた方の「かわさき演劇まつり」の感想が、会報制作後に届きましたので、掲載します。

私説・京浜協同劇団の歩み 第2回 —— 「稽古場が欲しい！」

# 第1次稽古場建設の頃

城谷 護

今の第2次稽古場が建ってから今年で30周年となる。その前に木造2階建ての第1次稽古場があって、それは24年間使った。劇団創立の頃のことを知っているのは若菜とき子と私だけになってしまったので書き残しておきたい。

創立の頃、劇団は浜川崎駅近くの日本鋼管川鉄労組会館を稽古場として借りていたが、2年目くらいから、労組が貸してくれなくなった。私たちは流浪の旅に出なければならなくなった。

南幸町の島田佐智子舞踊研究所が貸してくれるというので2年間くらいお借りすることができ、これは助かった。市立労働会館を使ってみたが、会議室が空いていなかったり9時前には退館しなければならなかったりして不便だった。日進町の町内会館も使わせてもらった。劇団員が教師をしている伝手で田島中学校を借りたり、日本人にも開放していた鶴見朝鮮初級学校を借りたりもした。研究生の教育レッスンに、遠い東神奈川のこぼと保育園も使わせてもらったこともある。鶴見地区労も借りたし、道具作りに鶴見の全日自労の倉庫を借りたりもした。妙光寺近くのみゆき幼稚園にもお世話になった。空き家になっていた清和電機の倉庫も借りたが、ここでは母親劇団員がコンクリートの

床に毛布を敷いて子どもを寝かせて稽古をするというありさまだった。争議中で工場を占拠している<sup>だいわ</sup>大和電気労組の建物を借りたりもした。このように転々とし10年間でその数は12か所にのぼった。

「好きな時に稽古や会議や道具作りができる自分たちの稽古場が欲しい！」という願いは切実だった。しかし、その願いは意外と早く訪れた。現在の稽古場が建っている古市場に土地が見つかったのだ。そこは日本鋼管の元社宅跡地だった。140坪の土地だったがとても手も出さず、半分の70坪しか買えなかった。木造2階建て稽古場を建てるとしたら土地代込みで2,700万円がかかる。とてもそんな金はない。どうする？ そのとき、茅ヶ崎に戸建ての家を持っていた細田寿郎・若菜とき子夫妻が自分の家を手放す決心をしてくれたのだ。それが500万円。2階に劇団員5世帯を住ませるようにして、その住人が300万円ずつを出し合い、合計1,500万円を出すことにした。それでもあと700万円が足りない。観客や市民の皆さんに応援を頼むしかない。そこで、債券を発行して皆さんから借金をすることになった。本当によく協力してくださって目標を超える800万円が寄せられた。こうして資金ができ、稽古場は1970年に完成したのだった。

しかし、800万円の債券は返済していかなければならない。そこで女性劇団員は近くの食堂でおにぎりを握るアルバイトやら、男性劇団員は道路工事のアルバイトやらをやるなどして資金集めに汗を流した。みんな若かった。私も30歳だった。しかし、そのバイトは長くは続かなかった。演劇人としてはむなしなのだ。やはり、創造的な仕事で稼ぐ方がやりがいがある。『夕鶴』、『三年寝太郎』などの民話劇や太鼓を仕込んで学校公演をしたのだった。それで一定の資金が稼げた。

稽古場の特徴は2つ、その一つは劇団員5世帯が



住むということだった。細田夫妻、中沢夫妻、水野夫妻、山本夫妻（のちに原科夫妻と入れ替わった）、城谷夫妻だった。もう一つの特徴は保育室を設けたことだった。女性劇団員が子どもを持って劇団活動ができるよう、稽古の間、専門の保育さんに保育室で面倒を見てもらえるようにしたことだ。これにより、数人の劇団員が子どもを育てながら劇団活動ができるようになった。

そしてこの稽古場から、『夕鶴』などの民話劇、のちにフランス公演やロシア公演まで行うことになった『権兵衛太鼓』が生まれた。また、大きな話題を呼んだ集団創作劇『902番船、進水！』や小田健也演出の『コーカサスの白墨の輪』、『金冠のイエス』などが生まれた。大きな取り組みとなった『郡上の立百姓』もここで生まれ、それがこの稽古場最後の仕事となった。どれも自前の稽古なしには成し得ない公演だった。

1970年代初頭は東京で美濃部都知事、鎌倉で正木市長、川崎で伊藤市長など革新自治体が相次いで生まれた。私たちが川崎文化会議と一緒にあって伊藤市長当選のために奮闘した。当選後は市長と懇

談会を持ちたり市民の文化的要求を提示したりしたのだった。その成果の一つに「かわさき演劇まつり」がある。それは、「市民劇団がいい演劇をつくり、市民に安く楽しんでもらおう」ということで、川崎演劇協会が中心となって企画、上演するというものだった。市から委託金が降りた。それは今日まで50年にわたって続いている。この事業でも拠点となったのはこの稽古場だった。

しかし、24年も経てば木造の建物は傷んでくる。雨漏りがするようになり、ギシギシいうようになった。稽古場を建て直すことが必須のこととなった。



旧稽古場の正面（50周年記念誌より）

## 本の紹介

### この国の同調圧力

山崎 雅弘 著 SB クリエイティブ 刊 800円＋税

日本人は、なぜこれほどまでに「同調圧力」に弱いのか？ 私たちの心と行動から自由を奪う「見えない力」をさまざまな角度から分析し、その構造を読み解き、正体を浮かび上がらせる。

『日本会議一戦前回帰への情念』『歴史戦と思想戦—歴史問題の読み解き方』で知られる著者が、私たちに縛る「見えない力」から自由になるヒントを提起。



劇団員による劇団員紹介 第 16 回——藤井康雄さんによる城谷護さん紹介

# まさに小さな巨人！どこからそのようなエネルギーが

京浜協同劇団 藤井 康雄



文化の仲間の会報 97 号から城谷護さんによる「京浜協同劇団の歩み」が始まった。劇団の第一期生として演劇人生をスタート、創立公演「炉あかり」にセリフのない飲み屋の客、朝鮮人の役として出演した。「すごくリアルな役だった」と褒められたと記載している。

つまり城谷さんは創立時の宣言「この日、この地で、この人々と」を全身で受け止めながら、初舞台の演技も評価されながら幸先良いスタートを切ったと言えるだろう。

考えてみると入団までのプロセスは私の場合とよく似ているのだ。私は岩手の出身、日本鋼管鶴見製鉄所（城谷さんが勤務していた造船所に隣接）に 15 歳、養成工として入社、正式に職場配属されて働き始め「何かやりたいな」と思い始めたとき劇団の第 3 回公演「マーシェンカ」を組合の掲示板に誘われ観劇、第 4 期生として即応募したのです。

当時研究生の研修期間は半年、次々に若々しいメンバーが隊列に加わり活気に満ち溢れていました。城谷さんも一歩先をゆく先輩格の一人として「指導的役割を果たさなければ」と思っていたに違いないと推察するところです。

恋愛の分野でも多分そうでした。夢だけは豊富にありながらお金には全く縁がないという場合の結婚式は会費制で行こう、ということで始まった結婚式、私が入団してからの第一号は城谷、瀬谷さんだったと思う。その間借りの新婚家庭に「おい！ 飯でも食っていかないか」と誘われたことを思い出す。



指導的と言えば生前の黒沢参吉さんもその先駆的役割を果たした人であった。戦前、10 代のころからこの地で演劇活動をはじめ、協同劇団立ち上げの後も地域に根ざした

創作劇を生み出しながら、「川崎に限らず全国の地域劇団の仲間が連帯し学び合いながら豊かな地域劇団の在り方を追求していこう」の挑戦も続けます。その結果東日本リアリズム演劇会議が結成されさらに強固な組織にしようとして全国をオルグして回っていたのです。

城谷さんが黒沢さんに重なって見えるのは私だけでしょうか。それは「自身が創造者でありながらより多くの人と分かち合い共有したい」「その力こそが住みにくい日本を少しでも変えていく力につながる」その理由を以下に述べます。

その 1 黒沢さん亡き後、全日本リアリズム演劇会議へと発展した組織を支える重要ポストを担い、今日まで諸困難を乗り越えながら継続していること。

その 2 45 歳から始めた腹話術。年 2 回の公演に加え、日常的に創造者としての表現活動をとうしてより多くの人たちと繋がりたい。今では全国各地での上演回数 4,801 回（1 月 7 日現在）。『腹話術で行こう』の本も出版。教室「きずなの会」も開催、生徒さん全国に多数。

その 3 地域文化への貢献です。劇団のみに留まらず川崎全体の文化環境の発展のために心あるすべての団体、個人は力を合わせよう、とする文化会議の活動です。行政に具体的提言を行うなど着実な成果を上げているのです。社会教育委員も務められ川崎文化賞も受賞されました。

その 4 主には腹話術中心ではありますが「ゴローちゃんの旅日記」というタイトルで東京新聞に連載を続けていることです。ゴローちゃんと聴衆との触れ合いから新しいつながりが生まれ、それは不合理に満ちた世相への笑いに満ちた抗議の声とも……。

まさに巨人です。どこからそのようなエネルギーが湧いてくるのでしょうか。

末尾ながらお礼を一言。

代役の件ですが私も「鉄道員」で主役の降板により 1 週間前でしたが代役を務めたことがあります。代役の大変さは重々承知しているつもりですが、市民劇ではなんと 2 回も体調不良入院で降板、そのたびに城谷さんに穴埋め以上の代役を果たしていただきました。ありがとうございました。

市制 100 周年に合わせて

# 百年前の川崎を劇化、上演へ

京浜協同劇団 制作 城谷 護

今年は川崎市が誕生してからちょうど 100 年目になります。第 9 回となる「川崎郷土・市民劇」は、それに合わせて、100 年前の川崎を描いた劇を上演することになりました。

多摩区在住の青少年演劇作家の小川信夫さんは、このために密（ひそか）に題材を温めておられたようで、もう 1 年前に台本を書き、「これではどうか」と我々の前に提示してくださったのです。題して『百年への贈り物—川崎市誕生ものがたり—』。まさにぴったりの台本で、市民劇の企画推進会議はすぐにこの作品でいくことを決め、実行委員会に提案したのでした。30 数名からなる実行委員会も昨年 5 月にこの提案を了承、1 年後（今年）の 5 月に上演することを決め、その準備にかかったのです。小川信夫さんはなんと 97 歳です。この歳で何という創造力でしょう。本当にすごい人です。

この川崎郷土・市民劇は、川崎の歴史や歴史上の人物を描き、それを市民の手で上演し、まちの活性化と市民文化の発展をはかろうとする目的で、今から 18 年前（2006 年）にスタートしました。以来、2 年毎に上演してきました。

前回は、2022 年にわが京浜協同劇団の和田庸子が書いた『おーい！ 煙突男よ』を上演、圧倒的な好評を受けたのですが、彼女はなんと上演の 1 か月後に大

動脈解離で急逝してしまったのです。これから市民劇をしょって立ってもらう書き手ただただに残念でなりません。

途方に暮れているところに、これまで 8 回のうち 7 本を提供してくださった小川信夫さんが今回も提供してくださったのです。この作品は、100 年前の川崎市誕生の頃を舞台にしています。この頃、多摩川流域では赤痢、コレラなどの伝染病が流行っていて住民は困り果てていました。32 歳という若さで川崎町の町長となった石井泰助は、何とかしてきれいな水を確保するために上水道を造ろうとしました。ところが水売りの既得権を持った業者の猛烈な反対に遭い、また多額の資金を調達するのに喘いでいました。しかし、石井は町長を辞してまで上水道の建設と工場誘致、資金の調達に奔走し、ついに大正 10 年、上水道を完成させたのです。近隣の御幸村、大師町もこの水を求めて合併、川崎市が誕生するのです。この雄大な理想を実現するまでの苦闘がドラマの山になっています。

出演者は一般市民から公募、応募者は 30 数人になり、いよいよ稽古が 1 月 11 日から始まります。演出は定評ある鈴木龍男氏（劇団前進座）、スタッフはプロの人たちががっちり固めてくれます。どうぞご期待ください。

川崎市制 100 周年記念 第 9 回川崎郷土・市民劇

## 百年への贈り物—川崎市誕生ものがたり

作 小川信夫 演出 鈴木龍男（前進座）

料 金 前売 指定席 3,500 円 一般席 3,000 円  
学生・身障者 1,000 円

主 催 川崎郷土・市民劇実行委員会

共 催 川崎市 川崎市教育委員会  
(公財) 川崎市文化財団

お申し込みは京浜協同劇団でも受け付けます。

公演会場と開演時刻

5/11 (土)	5/12 (日)	5/18 (土)	5/19 (日)
多摩市民館	多摩市民館	幸市民館	幸市民館
14:00	14:00	11:00	14:00
		16:00	

◎文化の仲間通信◎

◆劇団民藝公演 やさしい猫

日程 2024年2月3日(土)～11日(日)(詳細問合せ)
会場 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA
作 中島京子/脚本 小池倫子/演出 丹野郁弓/出
演 河野しずか・船坂博子/望月ゆかり/佐々木梅
治/神敏将 ほか
料金 一般 6,600円 夜子ケット 4,400円 U30 (30
歳以下) 3,300円 (劇団のみ取り扱い・要証明書)
高校生以下 1,100円 (枚数限定・劇団のみ取り扱い・
要証明書)(全席指定・税込み)
『小さいうち』などの人気作で知られる中島京子
の小説を初めて舞台化。
問合せ・申込み 劇団民藝 TEL 044-987-7711
(月～土 10時～18時)

HP: www.gekidanmingei.co.jp

◆劇団銅鑼 創立 50 周年第 2 弾 No.57

ふしぎな木の実の料理法

日程 2月21日(水)～25日(日)詳細問合せ
会場 シアターグリーン BIG TREE THEATER
(池袋)
原作 岡田 淳/脚本 齋藤栄作/演出 大澤 遊/出
演 館野元彦・植木圭・齋藤千裕・深水裕子・佐藤
響子・亀岡幸大 ほか
料金 一般 5,000円 U30 3,500円
高校生以下 1,000円
こそあどの森で暮らすスキッパーは小包を受け取る。
中には見たことのない木の実が。その料理法を覚えて
もらうために……。

問合せ・申込み 劇団銅鑼

TEL03-3937-1101

Mail: info@gekidandora.com

HP: www.gekidandora.com

◆劇団文化座公演 166 花と龍

日程 2月23日(金)～3月3日(日)(詳細問合せ)
会場 俳優座劇場 (六本木)
原作 火野葦平/脚本 東 憲司/演出 鶴山 仁/出
演 津田二郎・青木和宣・鳴海宏明・佐藤哲也・藤
原章寛・米山実 ほか
料金 前売り精算券(2月19日まで) 5,500円 当
日・当日精算券 6,000円 U30 3,000円 高校生以
下 2,000円 ほか(詳細問合せ)
文化座創立 15 周年記念「ちぎられた縄」から 68 年、
いま再評価される火野葦平の魂に挑む! 第 58 回紀
伊國屋演劇賞個人賞受賞の藤原章寛が玉井五郎役に挑
みます。
問合せ・申込み 劇団文化座 03-3828-2216



絵手紙 竹間テル子

(日曜・祝日を除く 10 時～ 18 時)

E-mail: info@bunnkaza.com

◆第 13 回 原発ゼロへのカウントダウン in かわさき

日程 3月10日(日) 11:00～14:30
会場 中原平和公園 集会終了後、デモ行進
出店多数 11:00～ 文化行事・市民活動の紹介ブ
ース・飲食物の販売コーナー
メイン集会 13:00～ 海渡雄一弁護士・鴨下美和さ
ん ほか
連絡先 三嶋健 共同代表 044-211-0121 (川崎合同
法律事務所)
かもした元 事務局長 kibounotubasa@gmail.com
詳細は、HP: https://genpatsuzero.net

◆調布狛江合唱団 創立 60 周年記念演奏会 出発

日程 3月30日(土)14:00開演
会場 調布グリーンホール 大ホール(京王線調布駅)
演目 見上げてごらん夜の星を・上を向いて歩こう・
言葉は・出発 ほか
〈公募の皆さんと〉群青・Peace be with you
料金 一般 1,000円 高校生以下・障がい者 500円
全席自由

主催 調布狛江合唱団

問合せ・申込み 鈴木 090-3507-9008

◆おお人生よ! 和太鼓コンサート

日程 4月27日(土)13:00開演 17:00開演
(各30分前開場)
会場 ラゾーナ川崎プラザソル (川崎駅徒歩5分)
演目 武者太鼓・ソーラン節(正調)・豊年太鼓・三
宅太鼓 ほか
料金 2,000円(全席自由)

昨年 11 月に還暦越えのジジたち 13 人が太鼓サー
クルの枠を越えて演奏会を開催。予想を超えた反響に
再演を決定!

問合せ・申込み 梶原 090-7712-5060

●世話人会から

年が改まりましたので、会費の納入をお願いします。
個人会員は年会費 3,600 円、家族会員は年会費 5,000
円です。

\* \* \* \*

この会報に「私のうたごえ人生」連載中の菅野章さ
んが、12月25日に交通事故で重傷を負い入院されま
した。そのため、連載は休載します。

■文化の仲間ギャラリー■

大谷 敏行◎

「厳選」大谷敏行の川柳塾
温暖化 開闢 以来の異常かな
二〇二三年一月三日『新日本海新聞』掲載
雨だれが岩をも穿つ訓かな
うが おしえ
九月二八日『新日本海新聞』掲載
キッシンジャー
仕える人はメッセンジャー
想像力 欠如が言わす想定外
強盗のタイムパフォーマンス見事かな